

高橋 理(たかはし おさむ)

1932年東京都生まれ

東京大学文学部卒業、同大学大学院人文科学研究科(西洋史学専攻)修士課程修了  
弘前大学教養部教授から

1990年4月 山梨大学教育学部教授(～1998年3月)

1998年4月 立正大学文学部教授(～2003年3月)

2018年10月 ご逝去

著書:『ハンザ同盟—中世の都市と商人たち』(教育社)、『都市論の現在』(共著、  
文化書房博文社)

主な論文:「十三世紀ヴィスビ・ドイツ商人による北方通商法の確立」(『史学雑誌』88編11号)、「中世初期における北・東ヨーロッパの宣教事情」(『弘前大学教養部紀要』30号)、「ハンザ都市リューベクの帝国直属と十三世紀の教皇庁」(山梨大学教育学部報告)、「フィンチャルの聖ゴドリックとその時代」(『立正史学』93号)